

事業名	漁場生産力向上のための漁場改善実証試験 (漁場生産力低下の原因解明)
予算区分	受託試験研究費
事業実施期間	平成30～令和4年度
担当者	(環境増養殖担当)朝田健斗, 加藤慎治, 吉田和貴, 廣澤晃
共同研究機関等	水研機構, 香川県, 岡山県, 愛媛県, 香川大学
<p><目的></p> <p>紀伊水道西部及び周辺海域のノリ・ワカメ養殖漁場において, 海水中の栄養塩(DIN)濃度等の現場観測を行い, 漁場生産力低下との関係性を明らかにする。</p> <p><方法></p> <p>○栄養塩濃度等の定期観測 本事業報告書の「藻類養殖漁場環境調査」を参照されたい。</p> <p>○養殖ワカメのSPAD値の測定 養殖ワカメの色調の指標となるSPAD値の測定を, 紀伊水道南部の阿南市今津地区で行った。SPAD値は, 藻体の最大裂葉の欠刻部から裂葉先端に向かって10cmの間に3カ所測定した平均の値を用いた。</p> <p><結果></p> <p>養殖ワカメのSPAD値は, 1月末から2月上旬までは8以上で推移したが, それからSPAD値は徐々に低下し, 次第に色落ちが進行した。これは, 調査海域におけるDIN濃度が, 12月以降は常に2μM未満と低く推移したためと考えられた(図1)。</p> <p><今後の課題></p> <p>特になし</p> <p><次年度の計画></p> <p>継続する。</p> <p><結果の発表・活用状況等></p> <p>本試験の詳細については, 「令和2年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発」成果報告書を参照されたい。</p>	

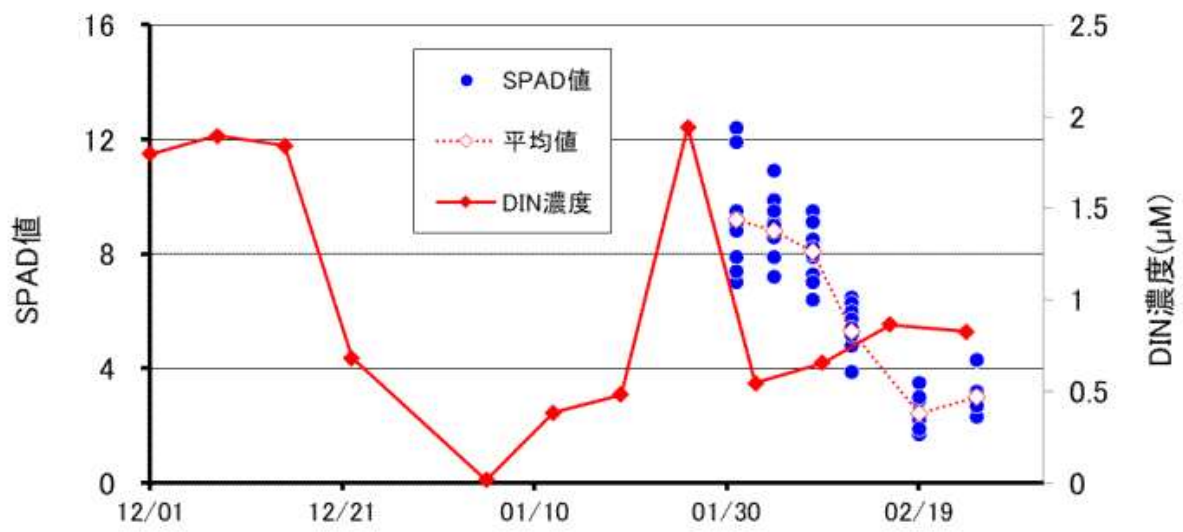


図1. 2020年12月以降の紀伊水道南部のDIN濃度 (μM) と今津地区のワカメのSPAD値の推移